

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3958-0121

1 前 文

出題内容は学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらい及び内容におおむね則しており、基礎・基本を重視したものとなっている。平易な問いを中心に高校生が学習した知識や涵養した思考力に基づき、考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。ここでは後期中等教育を与える現場からの意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

全体を通して質・量ともに共通テスト初年度以来、同程度を維持している。昨年度と比べ大問7は変わらないが解答数は軽減された。出題水準はほぼ同程度ながら、問題を読み込むのに時間を要する出題とすることで高校生には解きにくくする工夫が施されているように思われる。特に高得点を取りにくくする工夫が見られる。大問の設定から各小問が求める知識や思考力判断力を考えて正答に至る過程を丁寧にたどるとほぼ所定の時間を使い切ることになろう。大量の文字情報や数値あるいはグラフなどを読み込み処理する能力も求められている。この求められる能力が「倫理」及び「政治・経済」の学習において涵養される能力であり共通テストとしてはかかるべき学力なのかについては議論の余地があるかもしれない。とはいえ、おおむね学習指導要領に則り、基礎的基本的な知識を確認する問いや、確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「倫理」及び「政治・経済」で学んだ見方考え方を発展させた思考力判断力を駆使して解く問いを中心に構成されている。難問奇問は見られず平易ながら考えて解く工夫がなされている。大問の状況設定に無理があるのは共通テストならではの制約とは理解できるものの、出題される先生方の専門性を活かした学問としての背景のあるリード文を高校生に読ませ、「倫理」、「政治・経済」を学習した延長線上に高等教育があることを実感させ、深遠な学問の世界に向かう尊さ、真理の探究者の一員として学問を修めることへの畏敬の念を育てるとともに、学問への真摯な姿勢を涵養する工夫も期待したい。それだけ共通テストがもつ高校生への影響力は大きく、かつ重い。問いの構成も「倫理」及び「政治・経済」で学ぶ内容をただ寄せ集めたものではなく、解きながら体系立てた学びが深まり、大学での研究につながることを感じさせるものであるべきだろう。

以下、各設問について意見と評価を申し述べる。

第1問 「ルカによる福音書」の「善きサマリア人」のエピソードを想起させる会話文を読み、源流思想について考える問題。

問1 イエスの思想と行動、大乘仏教の教え及び朱子の思想について基礎的基本的な知識を問う。

問2 キリスト教からパウロの思想、バラモン教からウパニシャッド哲学、イスラームにおける終末の捉え方及びソクラテスの思想について基礎的基本的な知識を問う。

問3 ソクラテスについての資料の読解とプラトンについての知識理解に基づく問い。ソクラテスの発言とされる資料文の意図するところを読み取る力とプラトンの魂の三分説についての基礎的基本的な知識を問う。

問4 陽明学についての資料の読解に基づく問い。七情については資料を読めば理解できるだろう。

第2問 二人の生徒の二つの会話から、日本思想について考える問題。

問1 中世思想から西行と兼好を選ぶ。アは「各地を旅しながら……」で西行、イは「無常」と「随筆」で兼好と分かる基礎的基本的な知識の問い。

問2 儒学者についての基礎的基本的な知識を問う。①雨森芳洲、②石田梅岩、③中江藤樹、④荻生徂徠。

問3 近代日本の社会問題を考えた人物について基礎的基本的な知識を問う。水平社宣言を起草した西光万吉を選ぶのは基礎基本。

問4 レポート内容に合致する文を選ぶ読解力の問い。

第3問 社会に関するエッセーを読みヨーロッパの思想や哲学についての理解を問う。

問1 ヒューム懐疑論についての文章を読み、空所補充を通して、基礎的基本的な知識を確認する。因果関係は人間の心の習慣によると考え、客観性を否定し、人間の心を知覚の束と捉えるのがヒュームであるという知識を活用する力が求められる。

問2 社会改良の思想としてのサン・シモンとコントについて基礎的基本的な知識を問う。コントの実証主義やサン・シモンの人道的な立場からの資本主義批判だけでは捉えきれない工夫がなされている。

問3 ハーバーマスの思想についての基礎的基本的な知識と資料の読解力を併せて問う。ハーバーマスのコミュニケーション論から言えば①や②に示される道具的理性やシステム合理性をハーバーマスは否定しているので選択は③と④からに絞られる。後は読解力である。

問4 会話文の趣旨に合致したものを選ぶ読解力の問い。

第4問 生徒が発表し議論する枠組みの中で青年期や現代の倫理に関して考える問題。

問1 個人と社会の関係から、サンデル、リースマン、ノージック及びサルトルの思想についての基礎的基本的な知識を確認する。アは「コミュニティ」「共通善」からサンデル、イは「孤独な群衆」からリースマンとわかる平易な問い。

問2 青年期のモラトリアムについての基礎的基本的な知識を問う。

問3 アーレントの思想について基礎的基本的な知識と資料の読解力を併せて問う。

問4 発表と議論を踏まえた更なる会話を完成させるために適切な用語や表現を選ぶ思考力判断力を問う。思考力判断力が問われる。

第5問 三人の生徒が「政治・経済」の授業で「法」を主題に発表するという想定で、人権保障、司法制度、議会制度の課題、の三分野にわたり、基礎的基本的な知識と確かな知識に基づく思考力・判断力を問う。体系立てた小問構成ではなく、解きながら高校生が学びのストーリーを描くことは難しい。共通テストが後期中等教育にある生徒たちに大学で学ぶにはこれだけの知的水準が必要なのだという水準を示すリード文を設けることの方がはるかに重要だと思われる。後期中等教育における「政治・経済」の学習内容を踏まえた知的なリード文を示した上で問いを設定すべきではないか。

問1 法の見方考え方についての思考力判断力を問う。「『社会秩序を維持するために国家が設定した社会規範』としての法を、国家が直接に強制している」事例を選ぶ。①～④の中で公法に関連するのは②だけなので、内容を吟味せずに正答に至る。

問2 人権獲得の歴史について基礎的基本的な知識を問う。人権の発展過程を考えれば正答は容易。a フランス人権宣言、d アメリカ独立宣言とわからなくても、自由と平等を述べているので18世紀の人権規定だろうと推察される。c はワイマール憲法とわからなくても生存権

規定だから20世紀の規定とわかる。bは児童とあることから児童の権利条約で最も新しいとわかる。

問3 障害者の権利について基礎的基本的な知識を問う。a, bは平等についての, c, dは職場における合理的配慮についての, 基礎的基本的な知識に基づく思考力判断力を問う。

問4 外国人の参政権についての基礎的基本的な知識に基づく読解力を問う。知識があれば資料を読まなくても正解は得られる。知識がなくても読解力があれば正解は得られる。

問5 司法制度改革の内容についての基礎的基本的な知識を確認する。被害者参加制度と裁判員裁判の知識を混同していると誤りを得られない。

問6 労働法について, 2010年以後の法改正の実際と背景となった出来事を組み合わせる思考力判断力の問い。ア-c 男性の育休取得率が低い。イ-a 有期契約を複数回更新していた。ウ-b 過労死や過労自殺が多い。という組合せを考えれば正答は容易。

第6問 生徒が「政治・経済」の経済分野をノートにまとめたという想定で経済に関する小問で構成されている。経済思想, 農業政策, 財政, 経済格差, アウトソーシング等が問われ経済分野を概観するようにつくられている。しかし, 「政治・経済」の学習内容を踏まえた知的なリード文を示した上で問いを設定すべきではないか。リード文のもつ教育的意義は大きい。

問1 経済思想についての基礎的基本的な知識を問う。リストの『経済学の国民的体系』と経済発展段階説についての基礎的基本的な知識を問う。

問2 日本の農業の現状あるいは農業政策の現状を問う。bが正答とわからなくてもaでは2000年以後に食糧管理制度が導入されたと記述があり誤文とわかり, cでは関税撤廃で輸入制限強化という矛盾した記述があり誤文とわかり, 消去法でも正答は容易。

問3 GATT及びWTOのラウンド交渉についての基礎的基本的な知識を問う。知的財産権の保護については特許庁も教育分野で啓蒙活動を始める等の動きもあり, 出題に値する内容である。

問4 社会保障費と基礎的財政収支の黒字化について財政に関する図表の読解力を問う。基礎的基本的な問い。

問5 今日の日本における経済格差についての基礎的基本的な知識の問い。

問6 地方自治体のアウトソーシングの具体例を選ぶ基礎的基本的な知識の問い。

第7問 生徒が探究する想定で雇用と労働を考える問題。

問1 需要の価格弾力性について資料を読み考える問い。

問2 家計において可処分所得と消費性向の関係から所得格差が消費に与える影響を考える設定で表の読み取りとメモの読解力を問う。租税や社会保険料は消費支出に含まれないことは基礎的基本的な知識。消費支出の多寡は計算で求められる。

問3 労働に関する基礎的基本的な用語の理解を問う。メモの1に在宅勤務とありbテレワークと結びつく。メモの3に会社と退社の時刻を自由に決められるコアタイムの設定とありaフレックスタイム制と結びつく。

問4 発表原稿の読解と図の読み取りに基づく思考力・判断力を問う。アの労働組合の組織率は長期低落傾向にある折れ線グラフがcのみなので迷わず選べる。労働関係の民事訴訟と労働審判の見分け方は前者は以前からあるだろうが労働審判は最近だろうからbとaが決まる。もちろん, 労働審判が2006年と知っていればより簡単に正答に至る。発表原稿全文を読まずして簡単に正答は得られる。せっかく発表原稿を用意するなら, 発表原稿を読まなければ正答に至れない工夫があつてしかるべきだろう。